

チェック!

下痢のコントロールが 生産性向上のポイント



今回のテーマは
細菌性下痢の対策
についてです。

●下痢は生産性を悪化させる

養豚場では下痢便や軟便を排泄している豚（特に離乳豚）を比較的頻繁に目にします。下痢を発症した豚は発育が遅延し、農場の生産性を悪化させる原因となります。写真には下痢のために発育が遅延した豚を示しました。写真の豚は全頭同じ日齢ですが、真ん中の豚だけサルモネラ・ティフィムリウムによる下痢を発症し、発育が遅延しています。



下痢の原因は感染症、飼養管理の失敗、ストレスなど多岐にわたります。今回は下痢の主要な原因の一つであるサルモネラ、病原性大腸菌など病原性細菌による

下痢の対策について記載します。

●アウト時の洗浄・消毒が病原性細菌を減らす

病原性細菌が侵入していない農場での対策は、これら病原性細菌の侵入を許さないバイオセキュリティの構築とその継続です。具体的には豚の導入元を疾病の少ない清浄度の高い農場に限定する、屠場に行ったトラックは場外で洗浄する、ネズミ・野鳥対策を確実に行うなどがあります。

一方、すでに病原性細菌が侵入している農場や豚舎では病原性細菌の数を減らすことが有効な対策となります。その方法は豚をアウトした際の洗浄・消毒です。サルモネラ汚染農場で豚群内のサルモネラ汚染が広がってしまう農場では、広がらない農場に比べて洗浄後の給餌器や飲水器に多量の菌が残る傾向にあると報告されています。汚染を広げないためには、給餌器・飲水器の洗浄・消毒も徹底する必要があります。

図1にサルモネラ・ティフィムリウム実験感染豚の下痢便、軟便、正常便それぞれ1g中に含まれる菌数を示しました。下痢便や軟便中には多量の菌が含まれているので、それらを長靴につけたまま、ほかの豚舎に

移動すると多量の菌もいっしょに移動することになります。豚舎を移動する際には長靴の履き替え、踏み込み消毒槽の設置、専用のつなぎを用意するなどの対策を行い、病原体の拡散を防止することが重要です。

病原性大腸菌やサルモネラが侵入している豚舎で豚の体内でのこれらの増殖を抑制する方法の一つに、有機酸の飼料・飲水添加があります。図2にはサルモネラ・ティフィムリウム実験感染豚の飼料中に有機酸の一種である乳酸（コリットパワー、科学飼料研究所）を2.8%添加した結果、糞便中のサルモネラ・ティフィムリウムの菌数が減少したことを示しました。

●適正な抗菌剤の使用も有効

また、抗菌剤の投与も対策の一つとなります。71号の本コーナーで紹介したとおりに、腸管感染症原因菌でも薬剤耐性菌は確認されています。以前は有効だった薬剤に対して菌が耐性を獲得したために、期待通りの効果が得られないこともあります。薬剤感受性試験を実施して有効な薬剤を選択して投与するようにしましょう。

図1：サルモネラ・ティフィムリウムの糞便性状別排菌数

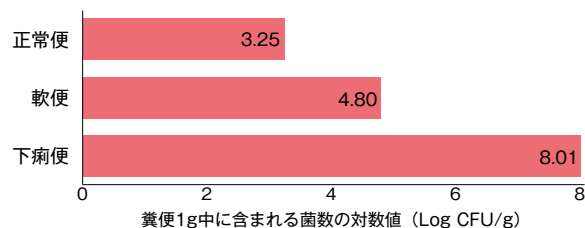
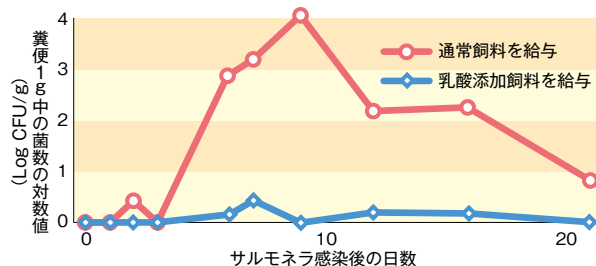


図2：乳酸給与時のサルモネラ・ティフィムリウム排菌数



通常飼料を給与した豚群では糞便1g中に 10^4 程度のサルモネラ・ティフィムリウムが排泄されるが、乳酸添加飼料を給与した群では 10^1 以下と少量の排泄に収まった